

## 第4章 個人事例

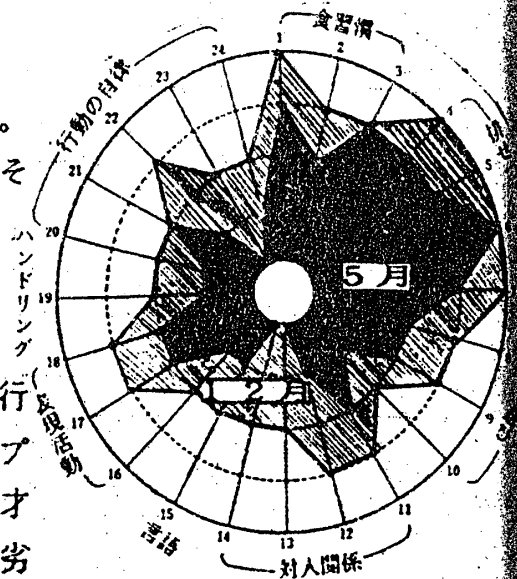
### 指示、援助があれば、みんなと一緒に生活に取り組み

はじめに

指示、援助が中々聞けず、着席行動や生活参加ができにくかったK児が、担任との愛着関係を結んでいく事を基盤に、からだづくりや楽しい生活参加を通して、言葉が育ち、指示や援助を受ければ、少しずつ皆と一緒に生活に取り組みだした経過について述べてみたい。

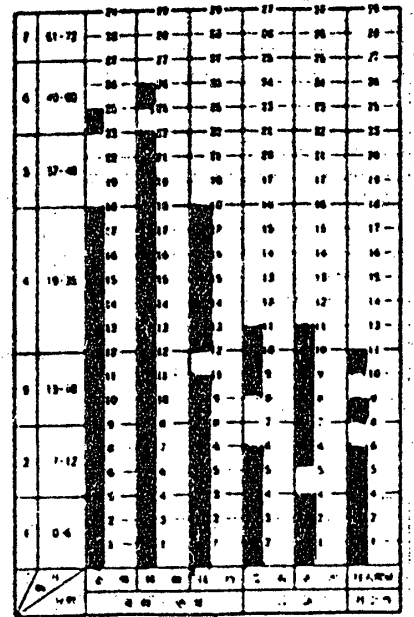
#### 1. K児の実態 (63. 5)

- ・小学部1年男子。自閉症。身体障害なし。
- ・正常分娩。体重、発歯、歩行開始とも標準的。
- ・1才7ヶ月の時、高熱でひきつけを起こし、その後、声かけに反応がなくなる。
- ・遠城寺式乳幼児発達検査で、2.5才程度。但し、対人関係、発語に極度に劣る。
- ・CLAC-II (図1)でも、対人関係、発語、行動の自律がおち込み、典型的な自閉症のタイプ
- ・MEPA (図2)では、第4ステージ(1.5~3才)が中心であるが、言語、社会性では1.5才と劣っている。内容的には、身体意識が劣っている
- ・デキタ、ダメ等のひとり言は少し見られるが、要求、応答はできない。
- ・本や積木並べ、数カード、階段等強い関心のある物が多く、中々着席行動が取れない。
- ・プレイルーム、プールサイド、保健室等行動範囲も広く、一人の担任がほとんどついて廻る。
- ・人なつっこい面があり、愛着関係がとれやすい



#### 2. つけたい力

- (1). 先生と一緒に頑張ろう、先生の指示なら聞こうとする、先生との人間関係をしっかり結ぶ力。
- (2). 要求や応答して人間関係を深めたり、行動を少しずつ内的に規制したりしてがんばる為の動作や言葉の力。



[MEPA-プロフィール表] (図2)

#### 3. 指導の方針

- (1). 担任とのかかわりを深め、愛着関係を基盤に、無理のない指導をする。
  - (2). からだを楽しんで動かす援助をして、からだや心をゆさぶり、発達の基礎となる力( 感覚運動機能や身体意識の向上、模倣能力を)を育てる。
  - (3). 好きな事、得意な事を中心に、熱中、集中、持続できる場を保障し、がんばる力を育てる。
  - (4). 模倣能力の向上を背景に、生活場面や個別学習を通して言葉を育てる。
- 上記の4つの指導方針は、K児の全生活を通して、色々な場面で指導を行ったが、特に中心となった指導の4事例について述べてみたい。

#### 4. 指導の実際

##### (1) 愛着関係を育てる=養訓=

愛着関係は、訓練や指導によって育つものではなくK児に近い気持ちになって、K児を認めK児を積極的に援助し、受け止めていく所に育つものである。その考えを根底におきながら更に、抽出養訓の時間を中心に次のような身体接触や遊びを通して、愛着関係を育てていった。

##### ○愛着関係を育てる遊びとK児の反応

月	身体接触・かかわり	K児の示した愛着行動例
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手をつないで散歩・高い所へだきかかえ</li> <li>・てんぐるまをして歩く・ぐるぐるまわし</li> <li>・こちょこちょ遊び・だっこしてトランポリン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にこにこして目をのぞき込む</li> <li>・顔やほほをくっつける・手をつないでくる</li> <li>・自分から両手を出して抱っこを要求してくる</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱っこしてブランコをしながら語りかける</li> <li>・抱っこして、目と目をあわせてお話したり、にらめっこ</li> <li>・ブロックのかくれんぼ(イナイナイバー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トッテ、のせて等要求を引っぱりで表現する</li> <li>・顔をじっと見るとニコニコして顔いじりをする</li> <li>・行きたい所へ先生を引っぱってこようとする</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抱っこして百面相をしたり、くすぐったりする</li> <li>・時々、力いっぱい抱きしめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クレーン現象がたくさん出る</li> <li>・いろいろしても気分があちつく</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手や足の指を一本ずつマッサージする</li> <li>・顔をくっつけたり、ほっぺをふくらましたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指一本ずつの名前を大きい声でいう</li> <li>・自分でも同じ表情をまねる</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだをえびのように曲げたり伸ばしたりする</li> <li>・なべなべ庭ぬけなどのわらべ歌遊びする</li> <li>・指の名前をいながら指立て遊びをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな事を何度でもしてくれと要求してくる</li> <li>・わらべ歌に自分もブンブンと歌らしく歌う</li> <li>・目を合わせじっと待つと指の名前をいう</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを要求するまで目をじっと見て待つ</li> <li>・「ねよう」といってねっころがったり、手足を動かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギッチラとか足トントンと違って遊びを要求</li> <li>・ことば、動作もまねて一緒にねっころぶ</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソリーに乗って芝生をすべる</li> <li>・てんぐるまをして歌をうたいながら散歩をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でソリーを持って何回も要求する</li> <li>・声を合わせて歌をうたう</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・げんこつ山のためきさん等指遊び</li> <li>・だっこして絵本を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「げんこつ・・・」と歌って何回も要求</li> <li>・先生の指を持って絵本の文字をたどらせる</li> </ul>

小学部では、ムーブメント理論を背景にしたからだづくりの研究に取り組んできた。遊具遊びもその中の一つである。経験の不足から、遊具への思い切っ

た取り組みの出来なかったK児にとって、遊具への挑戦は、思い切りや決断力をつける、思い切りからだを動かすといった点で、重要な役割を果たしたと考える。

遊具への関心、K児なりの遊び方を見守りながら、時機を見て、思い切って挑戦させ、自信を付けていく方法を取った。

○遊具を使った遊びの変容

遊具	初めの実態と手だて	遊びの変容の様子
すべり台	・階段遊びをし、すべらない。(6.13) ・(抱っこして) → (後ろから少し押し て) → (ひとりで) と手だてをする。	・足でスピードを殺すが一人ですべる。(6.16) ・時にはスピードを殺さなくなる。(7.18) ・友達にせかされ、高いすべり台をすべる。(9.12)
ブランコ	・座って揺れるより立つのが好き。しか し、少しでも揺れると怖い。(6.16) ・(歌を唄いながら) 少しずつ押しかた に力を入れていく。	・小さい揺らしかたなら、3分位乗れる。(7.8) ・揺らし方を少し強める。膝でこく。(9.7) ・揺らし方を更に強めるが、降りないでがんばる。後 一人で乗って遊んでいた。(11.18)
ゆりかご	・立ちこぎに緊張し、顔がひきつる。(6 ・揺れに身体をどう対応するか観察しな がら、揺れをだんだん大きくする。 ・N君と一緒に(対面し) こがせる。	・バランスを取ろうと足をあちこち動かして必死。表 情は明るい。(6.16) ・自分から乗る。N君の足にあわせ膝でこげだす。足 もしっかりついている。(7.18)
芝ソリー	・50cmもすべらないのに足でブレーキ。 その繰り返しで山を下りる。(9.30) ・のせてと何回も要求。下りると、ヤッ ターと、喜ぶ。繰り返す。	・山を下りるまでのブレーキが5回と、初めの頃の半 分になる。繰り返し乗りたがる。(10.11) ・スピードもかなり速くしているが、ブレーキが2回 になる。繰り返しを喜ぶ。(11.18)
雲梯	・自分でよじのぼったが動けない。(7.1 ・自分の力でどう変わるか観察する。	・腹ばいで、約20分かかって渡りきる。(9.17) ・膝をつけて横向き(9.29) → 四つばいで、前向きで (12.1) → 5分て(12.8) とどんどん上達。

(3) 熱中・持続する態度を育てる = 好きな学習、好きな遊びを通して =

4月、5月の観察により、K児が「書く、ぬる、貼る、調理」といった操作的な学習になら着席して取り組める事が分かった。生活単元学習におけるK児の中心とする学習をこれらの活動に求めると同時に、固執的な遊びも状況が許す範囲では熱中・持続的態度を評価して、大切にしていこうと考えた。

月	15分以上持続した学習・遊びの例	月	15分以上持続した学習・遊びの例
4	・クレパスをぬる・数字ブロック・階段昇降	9	・リズム遊び・大玉ころがし・拭き掃除・雲梯
5	・ホットケーキ作り・絵(人)・指絵・遊具	10	・なぞりがき・茶きんしぼり・数字を書く
6	・ぬりえ・はけで塗る・積木・踏み板並べ	11	・バックを塗る・粘土・芝ソリー・フェンス渡り
7	・プール・スライド・おだんご作り・らくがき	12	・クッキー作り・タイル並べ・パズルボックス

(4) 模倣能力を育てる = リズム表現、指遊び等 =

身体意識の向上、集中・注視態度の向上を示す模倣能力は、無理をせず、じっと待つ中に、リズム遊び、指遊び、身体表現を中心に表れだし、向上を示した。主な経過は、次の通りである。

4月	・朝の会で、少したけ「ひげじいさん」をまねる	10月	・「らんかんさん」の模倣を1テンポ後れてする。
5月	・帰りの会で完全に「ひげじいさん」をまねる。	11月	・「くるりとまわってへい」で、動物の模倣。
6月	・新しい指遊び「たまご」を少しまねる。	12月	・「げんこつ山のためきさん」が完全にできる。
7月	・給食の配膳をN君と全く同じに置き変える。	12月	・言葉を少しずつ、自分から真似始める。
9月	・ラジオ体操、どんぐり体操をそれらしくまねる	11月	・新しくなったリズムサーギットを良くまねる。

5. 指導の結果

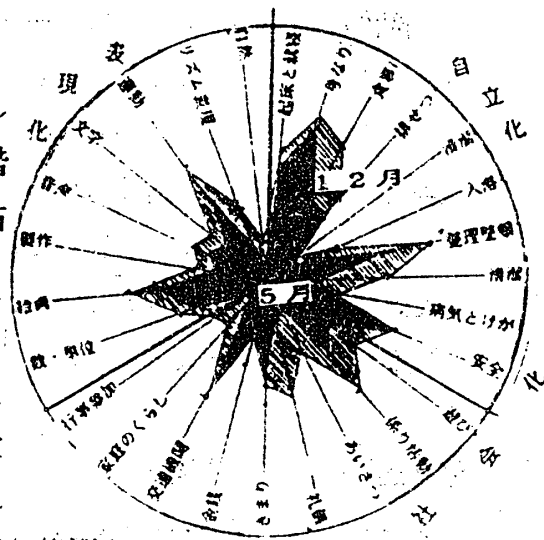
(1) つけたい力がどう育ったか

	指導・手だて	交信・言葉	着席・自己統制	生活の様子
(4月5月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体接触をおおしく、安心感をもたせる。</li> <li>K児の興味のあることで担任も遊んでみる。</li> <li>無理強いをしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>独り言で数語発するが、会話は無い。</li> <li>語りかけに、口をつむぐ</li> <li>動作を伴う音(ピョンピョン等)を時々まわる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室から飛び出し、殆ど着席しない。</li> <li>制止されると、パニック状態になる。</li> <li>数のカード、積木に熱中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己中心に行動。担任が一人ついてまわる。</li> <li>階段、非常階段で遊ぶ。</li> <li>着脱技能以外は、殆ど1段階の指導が必要</li> </ul>
(6月7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体を揺さぶりながら、表情模倣、音声模倣を取り入れていく。</li> <li>動作援助、指示で行動を少し統制していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はっぱを押して、ブーブとまわる。</li> <li>時々、チョーダイを言う</li> <li>足の指の名前をオートターン・等大きい声で言う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会で、時々着席</li> <li>ひげじいさんの指遊びをやりはじめる。</li> <li>Kくん<sup>の</sup>の声かけで目を合わせ、時々戻って来る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探索の範囲が校内に広がる。教室にも居りだす。</li> <li>給食当番が定着。洗面、掃除を友達と一緒にする</li> <li>遊具へ挑戦しはじめる。</li> </ul>
(9月10月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作模倣に手掛りが見られだす。</li> <li>カード学習を取り入れる</li> <li>出来るだけ一緒に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作模倣、言葉の模倣が多くなる。</li> <li>引っぱり、クレーン等、伝達意欲が高まる。</li> <li>絵カードで単語が言える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会でも音楽鑑賞を中心に着席しだす。</li> <li>書く、塗る、粘土、調理といった操作的な学習に25~30分集中し始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の指示で、一番に掃除、洗面にかかったりする</li> <li>取り組む遊具がふえ、雲梯に登ったりする。</li> <li>先生と一緒に歌を歌う。</li> </ul>
(11月1月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>援助による模倣から、自分で・に持っていく。</li> <li>着席、自己統制に、言葉からの打ち込みをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝、帰りの挨拶が言える</li> <li>指示をまねて言います</li> <li>文字カードで単語がまねて言える。</li> <li>写真の友達の名前を言う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の流が分かり、教室では、少しの援助で同じ行動がとれだす。</li> <li>「~をしてから」が分かりだしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>階段で遊んでいても、声かけて戻って来れだす。</li> <li>遊具で身体をいっぱい動かして遊びだす。</li> <li>一人でうたを歌いだす。</li> </ul>

具体例に示すように、愛着関係、からだのこなし、模倣、言葉にかんしては著しく、また、その反映としての着席行動や自己統制など生活の様子にも少しずつ変容が見られる。この事は、CLAC-II(図1)にも広がりとして表れている。

(2) 社会的自立に向けてどう育っているか

以上、当面する課題(子ども像)をめざして取り組んできた結果、K児は、本校の段階別教育内容のⅢ段階(小学部)に対して、右のような広がりを示した。



(3) 今後の課題

取り組みの結果、かなりの成果を示したとはいえ、K児の状態はまだ、日によってかなりの揺れがある。担任との愛着関係や充実した生活による内的高まりによって、更に確実な集団参加の力にしていきたい。また、急速に出ている言葉を、生活に密着した生きた言葉として獲得させていきたい。

(田口 久恵)